

学校評価について

学校評価とは

専修学校は、教育の質の改善及び充実を図るため、自己評価の実施と公表の義務化、学校関係者評価の実施・公表が努力義務化されています。

本校におきましても学校評価を実施し、評価結果を基に検討、改善することで特色ある専修学校作りの推進に努めております。

自己評価及び学校関係者評価の結果は以下の通りです。

令和6年度の取り組みと評価

<学校関係者評価委員会>

令和7年3月6日（水）：第10回学校関係者評価委員会実施いたしました。

評 価 者：学校関係者評価委員6名 参加者：学校長以下5名

以下評価コメント（一部抜粋）

「Ⅰ教育理念・目的・人材育成像」について

地域に貢献できる看護師の育成を目指した理念・目的・目標は定められている。地域包括ケアシステムを念頭に甕島実習等も計画されているが、これからの学生減少を踏まえ、今後の学校の将来構想を明確にしていくことが重要である。

「Ⅱ学校運営」について

運営方針や事業計画の策定においては評価できる。重点目標や年間運営計画も策定され計画的な運営ができています。ITC化も推進されパブリックホルダーやラインワークスを利用し業務の効率化を図る工夫ができています。情報漏洩・セキュリティ対策強化も計画的にお願いしたい。

「Ⅲ教育活動」について

毎年教育内容の評価、改善を通して創意工夫がみられている。シナリオモデルを用いたシミュレーション教育を取り入れ、思考を重視した授業の工夫がうかがえる。他校へ「多職種連携」の授業見学に参加するなど交流が見られている。ただ、教員経験3年未満の専任教員が半数を占めているので今後の育成が課題と言える。教職員ラダーを活用し教育体制の構築はできている。

「Ⅳ学修成果」について

進路就職支援相談会を開催し就職率は100%である。ただ毎年退学者が出ておりそれについての分析や対策が読み取れない。原因を明確にし、学校としてできる範囲での支援が必要である。同窓会を設立しているが、活動は少しだけ、ホームカミングデイも実施しているが、参加者は少数である。卒業後の卒業生への状況把握の手段を検討してほしい。

「Ⅴ学生支援」について

支援体制ができています。薩摩川内市の家賃補助など経済的支援は十分にされている。学生の背景や状況を把握し、必要に応じて保護者との連携もできています。卒業生への支援体制がもう少しあればいい。

「Ⅵ教育環境」について

養成所の指定規則に基づいた環境は整っている。校内火災避難訓練も実施し、大規模災害も参加できている。これから想定される原発事故や地震災害、洪水など、看護師になったときの立場から自身の取るべき対応を考える一助になったと評価する。

「Ⅶ学生募集」について

オープンキャンパス学校訪問、ホームページと広報活動を行っている。授業料については、今の物価等を踏まえると安い印象がある。

「Ⅸ社会貢献・地域貢献」について

法令遵守等はできている。看護の日の特別講演に近隣の施設に参加を促している。また看護の日のイベント等にボランティアとして参加している。

全体としては、前年度と比較し、評価平均が上昇し過去4年間では、最も高い。大項目Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ・Ⅶは上昇したが、大項目Ⅲ・Ⅴ・Ⅸは、前年度より低下した。これからも地域に根付いた学校運営と学生の確保や卒業生への支援、教職員の資質を向上が期待されている。

(令和 7 年度の課題)

- ① 計画的な教職員の研修等を積極的に促進する。
- ② 更なる ICT 化を促進し業務改善を行う。
- ③ 休学者・退学者の減少を目指し、原因分析と改善策を実施する。
- ④ 卒業生への支援体制をつくる。
- ⑤ 地域との連携と地域貢献を図る。

学校関係者評価委員会、大項目評価の平均値(令和 7 年 3 月 6 日)

5 点満点評価

評 価 項 目 (* 評価大項目及び付随する小項目内容・項目数)	R3 年度 平均 評点	R4 年度 平均 評点	R5 年度 平均 評点	R6 年度 平均 評点
I、教育理念・教育目的・人材育成像	4.8	4.8	4.7	5.0
II、学 校 運 営	4.3	4.5	4.75	5.0
III 教 育 活 動	4.7	4.25	4.4	4.3
IV 学 修 成 果	4.0	3.6	4.2	4.2
V 学 生 支 援	4.5	4.6	4.6	4.5
VI 教 育 環 境	5.0	4.8	4.7	5.0
VII 学 生 募 集	4.9	4.8	4.7	4.8
VIII 法 令 等 の 遵 守	5.0	5.0	5.0	5.0
IX 社会貢献 地域貢献	4.1	5.0	4.8	4.7
総項目平均評価点	4.58	4.59	4.65	4.7

教員自己評価（令和 7 年 1 月末実施）

<教員自己評価>

5 点満点評価

各評価内容別平均値での比較		R3	R4	R5	R6
I、教育課程 教授活動	1. 授 業	3.6	3.5	3.7	3.5
	2. 実 習	3.3	3.4	3.5	3.6
	3. 学 級 運 営・指 導	3.3	3.4	3.5	3.4
	4. 資 格 試 験	3.3	3.2	3.5	3.4
	5. 行 事 ・ 他	3.5	3.6	3.7	3.9
II、研究・研修	6. 研究 ・ 研修	2.5	2.8	3.0	2.9
III、組織運営 広報活動	7. 組 織 運 営	3.5	3.5	3.7	3.8
	8. 学 生 募 集	3.4	3.4	3.3	3.4
	9. 施 設 設 備	3.7	3.5	3.7	3.8
総 合 平 均 点		3.4	3.4	3.5	3.5

- 令和 7 年 1 月末実施

教員自己評価では、「I, 教育課程・教授活動」が 21 項目、「II, 研究・研鑽」が 3 項目、「III, 組織運営・広報」が 11 項目、3 分野 35 項目について 5 段階評価を行い、自己の取り組みの改善を図っています。

令和6年度教員自己評価結果のまとめ（一部抜粋）

1. 授業に関しては、評価点は0.2P 下降している。教員の退職に伴い、急遽授業が追加されて、十分な準備ができないまま実施したことが評価の低下と言える。しかし、その中で他教員の協力を得ながら、学生レディネスにあわせた授業になるよう工夫した。また、今年度は、授業にグループワークとプレゼンテーションやシミュレーションを取り入れ、能動的な授業形態へ進化している。
2. 実習に関しては、昨年度と評価点は同じであった。評価項目の実習計画については高得点で、逆に臨床指導者との連携や調整に課題が残った。連携に関しての教員評価は、全体的に低めであった。臨床との連携は実習効果を左右するのでこの点の改善は今後の課題と言える。また、今年から全領域にルーブリック評価を導入し、実習場所によって評価の偏りが出ないように担当教員が評価のすり合わせを行い、公平性が保たれた。
3. 学級運営・学生指導に関しては、昨年度より評価点は0.1P 下降している。全体的に教員間での協力体制が円滑で、情報交換もタイムリーにできた。しかし、学生の基礎学力の低さから、漢字学習などをするが効果が上がらず、また、精神的に問題のある学生や倫理観の乏しい学生に対し、どう向き合えばいいのか迷い、自己評価が下がっていた。
4. 資格試験に関しての自己評価は、昨年より0.1P と下降している。国家試験に向けての計画は適切に実施できているが、成績低迷者への支援では、課題が残る。領域別実習、事例研究発表が終了して本格的な学習に入るが、如何に集中し合格率向上につなげるかに、課題を感じている。今後は、学習能力の低い学生が増える中、3年間を通しての更なる計画的支援が必要と言える。
5. 行事・他に関しては、今年度は0.2P 上昇した。教職員が係を中心に協力して実施したとの評価がほとんどであった。課題としては、学生が行事の中でどのように参加するかであると、意見が出ている。学生が主体的に行事を運営することが学生の成長につながる教育と言える。
6. 研究・研修に関しては、0.1P 下降している。研究できる状況でなく、研修も業務優先になるため参加できなかった教員も複数人いる。ただ、本校でシミュレーション研修ができた意義は大きかったようだ。また、他校の多職種連携の授業に参加できたこともよかった。各教員からは、文献学習に努めているようなので、教材の充実も必要と言える。
7. 組織運営に関しては、昨年と比較すると0.1P 上昇している。自分の役割を自覚し、互いに尊重しあいながら協力できたと評価している。この評価が高いことは、喜ばしいことではあるが、業務を回すことを優先し各教員の資質向上がおざなりになってはいけない。組織運営を円滑に行いながら、研究・研修の領域をどう充実させていくか課題である。
8. 学生募集に関しては、今年度は、評価点が上昇している。自己評価内容では、協力し、役割を果たしているということであった。創意工夫もやることはやっているが、更なる何かが必要という意見もあった。今年は、種子島、屋久島も訪問したが、他校も訪問していた。学生の争奪戦が今後も続くようだ。
9. 施設整備に関しては、今年度から、公用車のリースが開始になった。実習準備室も教員が率先して片付け、学習環境を整備している。教室の天井が外れそうになり、学校の老朽化も進んでいるので定期的なメンテナンスが必要である。また、ICT を積極的に導入する時代になり、業務改善が今後の課題と言える。

全体的には、ここ数年間で徐々に自己評価は上昇していたが今年度は横ばいとなっている。中堅の教員が離職し、9月以降に新人の教員が入職し、授業や実習、学級運営などに苦慮しているところで評価点が伸び悩んでいるが、教職員が協力できる行事や組織運営、学生募集では評価点が高値になり、全体平均が横ばいになったと言える。今後は各教員の多重課題が多く、なかなか授業研究や自己研鑽に至らないため環境改善、働き方の見直しが今後ますます必要である。